

# 令和元年度 自己評価書及び学校関係者評価書

## 1 学校教育目標 「緑の風に夢のせて 未来を拓く人となれ」

## 2 本年度の重点目標

夢の実現に向け自己を内省し、自己肯定感に基づき自ら向上しようとする生徒の育成と、「アタマ」「ココロ」「カラダ」「ナカマ」を培う教育活動を図る

## 3 学校経営の基本方針

- (1) 調和の取れた教育課程の実践と検証・改善に努める。
- (2) 基礎・基本の確実な定着を図り、「わかる・できる」授業の工夫改善に努める。
- (3) 基本的な生活習慣の定着を図り、規律ある態度と豊かな心を育成する。
- (4) 学校生活に潤いと活気を与える感動のある行事・活動の充実に努める。
- (5) 内と外に開かれた学校づくりに努める。

## 4 自己評価結果

アンケート回答結果→A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

「%」=肯定率(Aの%+Bの%)を表わす。回答結果(肯定率)が、70%以上ならA、45~70%ならB、45%未満ならばCと評価

分野	評価項目 (上段の数値は、A+Bの回答数)	自己評価		学校関係者評価	
		回答数	改善の方策	適切さ	
		肯定率		自己評価	改善策
学習指導	1 わかりやすく、理解しやすい授業を行っている。 教職員 = 10名 保護者 = 84名 生徒 = 100名 全回答数 227	194 85.5%	○本校の研修テーマである「課題探究的な学習活動を取り入れた『対話で学びが深まる授業』の充実」について、子どもたちが協働して課題解決に向かい、多面的・多角的に考察する授業の充実を目指す。 ○授業を通して、「学ぶ意欲・学んだ力・活かす力」をバランスよく育む教育活動に努める。	A	A
	2 総合的な学習の時間は生徒にとって役立つものとなっている。 教職員 = 12名 保護者 = 85名 生徒 = 101名 全回答数 228	198 86.8%	○旅行的行事や職業学習・環境学習等の取組の中で、生徒が自ら問いを見だし、課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現するという、探究的な学習過程を充実させる。 ○探究的な学習過程においては、コンピュータやタブレット端末などを適切かつ効果的に活用して、情報を収集・整理・発信するなどの学習活動を取り入れることで、より深い学びにつなげる。	A	A
	3 生徒に家庭学習に取組ませ、学習の習慣化を図らせている。 教職員 = 9名 保護者 = 46名 生徒 = 47名 全回答数 225	102 45.3%	○「生活・学習日記」の活用、授業における個に応じたきめの細かい指導を行うとともに、小学校との連携をさらに深めることで、中一貫した指導の中で、子どもの学ぶ力を育成する。 ○「さっぽろっ子学びのススメ」なども活用しながら家庭との共通理解のもとでの取組を進める。	B	A
学校関係評価者による意見	家庭学習の取組についてここ数年肯定率が連続して低下しているが、家庭学習の必要性や予習・復習の仕方など、基本的な面の共通理解を図り、指導面に工夫して地道に取り組み続けてもらいたい。 学校と地域が連携し、子どもが健全に成長することを願っている。				
生徒指導	4 学校生活のきまりを守り、落ち着いた学校生活を送る生徒を育てている。 教職員 = 12名 保護者 = 84名 生徒 = 101名 全回答数 227	197 86.8%	○あらゆる機会を通じ、生徒とのふれあい、声かけを積極的に行い、生徒の心情を多面的に理解し、生徒との信頼関係づくりを大切に指導を行う。 ○的確な生徒理解に基づいて、教育相談を充実させる。 ○学級や学校でのよりよい生活のために、生徒自らがきまりをつくって守る活動などを充実させる中で、生徒の規範意識を高める。	A	A
	5 しっかりとあいさつができる生徒を育てている。 教職員 = 8名 保護者 = 92名 生徒 = 100名 全回答数 228	200 87.7%	○気持ちの良い「あいさつ」は、潤いのある温かい人間関係の基本であることから、率先垂範で、より一層の習慣化を図る。 ○委員会活動による「よびかけ」等の継続、家庭への発信を通して、「あいさつの簾舞中」を実現していく。	A	A
	6 時間を守って学校生活を送っている。 教職員 = 11名 保護者 = 89名 生徒 = 103名 全回答数 227	203 89.4%	○「時間を守る強化月間」を設定し、学校生活を送る上での、最低限のルールとして、また学ぶ場にふさわしい「学習環境づくり」の面からも、「時間」を守らせる指導を継続する。 ○生活常任委員会の活動などを通して、生徒の自主性と自律性を培う指導を進めていく。	A	A
学校関係評価者による意見	生徒指導については適切に行われている。「あいさつ」を励行し、活発化させることにより、教職員はもとより生徒同士の信頼感も高まり、結果として互いの尊重や励まし、時にはいたわり、助け合っていくことの第一歩となり、豊かな心身の形成につながるものと考えている。 生徒は地域の人への感謝の気持ちをもって学んでほしい。				
進路指導	7 夢や目標を持って生活する生徒を育てている。 教職員 = 10名 保護者 = 65名 生徒 = 65名 全回答数 226	140 61.9%	○総合的な学習の時間・道徳・学活の授業や進路探究学習の取組を通して、自己を多面的に見つめさせることで、自分のよさに気付かせ、自己肯定感を高める。 ○外部講師による年2回の「講演会」をキャリアパスポートの取組と連携させ、生き方指導としての進路指導の充実を図る。	A	A
	8 進路情報の提供を行い、生徒の進路決定に役立っている。 教職員 = 12名 保護者 = 78名 生徒 = 88名 全回答数 228	178 78.1%	○各学年の発達段階を考慮し、3年間を見通した系統的な進路指導を行い、一人一人が自己の進路を切り拓いていけるような取組の充実を図る。 ○進路便りで情報を常時提供するとともに、学年PTA集会や懇談等で適切な時期に保護者に対しても説明の機会をもつ。	A	A
学校関係評価者による意見	中学校段階で自分なりの夢や目標を見出せない生徒もいるものとする。将来に向かっての心構えやチャレンジ精神を涵養させ、自分自身の進路を力強く切り拓いていく力を身につけさせてもらいたい。				

分野	評価項目 (上段の数値は、A+Bの回答数)	自己評価		学校関係者評価		
		回答数	改善の方策	適切さ		
		肯定率		自己評価	改善策	
特別活動	9 行事は、喜びや感動があり充実したものとなっている。 教職員 = 12 名 保護者 = 92 名 生徒 = 93 名 全回答数 228	197 86.4%	○学校生活に変化や潤い、活力を与え、感動のある行事・活動の充実に努める。 また、仲間と共に目的に向かって協力してやり遂げることで、成就感や達成感につなげる。	A	A	
	A	191 83.8%				○学級や学校における生活上の諸問題について、学級活動・各委員会・生徒総会などでの討議を通して、自らよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決していこうとする自主的、実践的態度を育成する。 ○生徒会の一員としての自覚と役割意識をもたせ、活動を通して、生徒相互の心の交流を図り、全校生徒の中に所属感や連帯感を高める。
	A	学校関係評価者による意見	行事活動については、当校ならではの素晴らしい企画がなされ、生徒も生き生きと充実しているものと思われる。生徒のさらなる成長を期待しつつ、工夫を凝らして取り組んでもらいたい。			
部活動	11 部活動を通じて、生徒を成長させている。 教職員 = 11 名 保護者 = 63 名 生徒 = 88 名 全回答数 219	162 74.0%	○生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、技術の向上だけでなく、スポーツや文化に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養に資するものとなるようにする。 ○部活動指導者・学年・学級間で折にふれ、報告・連絡・相談を繰り返しながら生徒に関わる情報を共有していく。	A	A	
	A	学校関係評価者による意見				登下校の様子等から、生徒同士仲良く励まし合いながら部活動に積極的に取り組んでいる様子が見受けられる。地域社会ボランティアとして貢献している活動もあり、地域住民から感謝されている。
	保護者・地域との連携	12 便りなどで、保護者や地域へ情報提供を行い教育活動への理解を深めている。 教職員 = 11 名 保護者 = 88 名 生徒 = 100 名 全回答数 226	199 88.1%	○学校ホームページを活用し、学校の「今」(当日の記録をテキスト、画像、動画化して配信するなど)を広く伝える。 ○学校便りや学校公開日のお知らせ等を地域の回覧板に載せていただいたりして、学校側から積極的に地域に発信する。	A	A
A		13 学校の施設・設備を効果的に活用して教育活動を行っている。 教職員 = 11 名 保護者 = 88 名 生徒 = 98 名 全回答数 228	197 86.4%			
A		学校関係評価者による意見	学校ホームページや学校便りによって学校の様子を十分知ることができる。パソコン、タブレット、スマートフォンなどが主流の社会において、適正な使用方法を学び、楽しい授業づくりの一環としてもらいたい。			
施設・設備	14 保護者や地域からの意見を聴き、学校改善に役立っている。 教職員 = 11 名 保護者 = 86 名 生徒 = / 名 全回答数 117	97 82.9%	○学校評価アンケートだけではなく、学級・学年PTAや学期末の個別懇談など、保護者との「直接的なコミュニケーション」の機会を工夫するなど、あらゆる機会を通して保護者の意見・要望等を把握し、真摯な姿勢で学校改善に生かす。 ○学校の発進力を高め、地域・保護者との連携を深める「開かれた学校づくり」を進めるとともに、さらに「安心・安全な学校」となることを目指す。	A	A	
	A	学校関係評価者による意見				学校、生徒、保護者が三者一体となり、地域とともに実践的な教育を進めている。今後とも「開かれた学校づくり」を推進してもらいたい。

学校関係者評価者による「全体に対する付帯意見」

- ・生徒の成長を期待するには、どんな小さなことでも誉めて自信をもたせることが肝要と思われる。自信を得た生徒は、おのずと積極的となり、前向きな姿勢が出てくるものと思われる。一つでも良い点をとらえ、自信をもたせてほしい。
- ・自校の教育活動のスタイルを大切に、生徒には物事の善悪をしっかり教え、自信をもって毅然とした中で地域の子ども達を育ててもらいたい。